

Manual ■ Dona Nobis Pacem

この曲は、16世紀頃に作曲されたと言われるアメリカの賛美歌です。‘Dona Nobis Pacem’（ドナ ノービス パーチェム）という歌詞だけで曲が作られており、この3つの単語とメロディーさえ覚えれば、誰でも歌うことができる曲です。カノンにしたときのメロディーの重なりが大変美しいため、歌う楽しさや、カノンの楽しさを十分に体験できます。しかし、音の跳躍があり音域も広がるため、正確に歌うには少し練習が必要です。ユニゾンで十分に練習してから、カノンで歌ってみてください。また、うたのピッチを安定させるために、ひとつのパートにリコーダーを加えることも効果的です。

Step 1

まずは全員で練習する

【ユニゾン】

- ・音が跳躍するときには、跳躍した先の音に移る前に、その音をイメージするようにする。そうすることで、跳躍後の音を充実した音で歌うことができる。
- ・高い音から低い音に移るメロディーのとき（例えばレードシラソの部分）は、音が下がりきらない傾向があるので、生徒の歌声をよく聴いて指摘してあげる。
- ・音の跳躍があり音域も広い曲なので、このユニゾンの段階で十分に練習する。

🎧ユニゾン：全員で同じメロディーを歌うこと（斉唱）

Step 2

3つに分かれて歌う

【3声カノン】

- ・パート同士の音の重なりを感じながら歌えるようにする。教師も生徒も、パート同士の音の関わり（どのようにメロディーが重なり合っているか）を知ると、ハーモニーを作る上で助けになる。
- ・パート同士が同じピッチで歌い合えるように、お互いのパートをよく聴く。
- ・後から加わるパートは前のパートのピッチをよく聴いて、その響きに加わる。従って、始めに歌いだすパートは、正確なピッチで歌い始めないといけないのでとても重要。

🎧カノン：同じメロディーをずらして歌うこと（輪唱）

🎧ピッチ：音高（音の高さ）

★うまくいかないときは、ユニゾンに戻って十分に練習しましょう。

また、2声のカノンでも練習できます。

★旋律と和声のかかわり（テクスチュア）を意識して歌いましょう。

Dona Nobis Pacem

われらに平安を

作者不詳 16世紀頃

①

Do - na no - bis pa - cem pa - cem,

5

do - - na - no - bis pa - - - - cem,

9 ②

Do - - - na no - - - bis pa - cem,

13

do - na no - bis pa - - - - cem,

17 ③

Do - - - na no - - bis pa - cem,

21

do - na no - bis pa - - - - cem.

音楽用語

- ユニゾン： 同度の音、あるいは同度の旋律を1声部あるいは数声部と一緒に演奏すること。しかし、女声と男声のように実音がオクターヴ離れているような場合にもいう。合唱の練習ではこの同度の練習は基礎的に大切である。より正確な同度の音高を必要とするのはもちろん、各音の音色の統一がなければ、人声の美しい和声は得られない。

- カノン： 厳格な模倣様式による多声楽曲の形式および技法。ある1声部の旋律を他の声部が忠実に模倣し、共に進行していくもの。2声カノン、3声カノンや2重カノン、同度カノン、2度カノン…など、声部の数や音程関係など様々な見地から分類されている。

- ピッチ： 音高（音の高さ）

- 順次進行： ある音が音階の隣りあった音、すなわち2度上または下へ進行すること。これに対して、ある音が3度以上離れた音に進むことを跳躍進行という。

- オスティナート： ある一定の音型を、楽曲全体を通じて、あるいはまとまった楽節全体を通じて、同一声部で、同一音高で、たえずくり返すことをいう。オスティナートは、しばしばバスにあらわれ、それはとくに〈basso ostinato〉〈ground〉と呼ばれる。しかし他の声部に現れることもある。

- テクスチュア： 旋律と和声の作曲上の特徴をいう。一般に、ホモフォニーでは、旋律と和声進行を担う伴奏部とが明瞭に区別される。ポリフォニックな書法においてはいくつかの声部が独立して、あるいは互いに模倣しながら動く。このような音楽構造上の特徴をおおまかに言い表すもので、例えば声部数によって決定される響きの「厚み」、ユニゾンやオクターヴでの重複のしかた、演奏に内在する力感の「軽さ」や「重さ」、などが問題となる。

[出典]

- ・目黒惇編（1983）『新訂合唱事典』 音楽之友社。
- ・浅香淳編（1991）『新訂標準音楽辞典』 音楽之友社。
- ・柴田南雄、遠山一行総監修（1996）『ニューグローブ世界音楽大事典』 講談社。
- ・小西友七、南出康世編集主幹（2006）『ジーニアス英和辞典』第4版 大修館書店

参考文献

- ・フォライ・カタリン、セーニ・エルジェーベト共著（1975）『コダーイ・システムとは何か』
羽仁協子, 谷本一之, 中川弘一郎共訳, 全音楽譜出版社。
- ・カルドシュ・パール（1994）『合唱の育成・合唱の響き』
羽仁協子監修, 菅原恵利訳, 全音楽譜出版社。